

科目名 (科目番号)	基礎看護技術Ⅱ (日常生活援助技術)	教員名	尾崎道江 山崎智代 田所夕子 他	学科等	看護	必修	履修年次	1
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
				オフィスアワー		月		
授業概要	看護は、人間に対する深い理解と科学的な思考、専門的な技術が一体となって看護活動を展開する。ここでは基礎看護技術Ⅰで修得したコミュニケーション技術を活用しつつ、生活行動を援助するために必要な専門的知識・技術について学習する。日常生活援助技術として環境調整、活動と休息、清潔、栄養と食事、排泄に関わる看護技術を習得し、実践できる力を養う。また、バイタルサイン測定技術を学び、安全・安楽・自立の視点から根拠に基づいた援助のあり方についても考えを深める。 関係する垂直軸：人間の理解、コミュニケーション、看護、生活環境、自己研鑽							
目的・目標	目的：対象者の日常生活行動を援助するために必要な専門的知識・技術・態度を習得する。 目標：①人間の基本的欲求に深く関わり、個々の生活環境や発達段階により異なる日常生活行動を理解できる。②生活行動をアセスメントするための観察の視点が理解できる。③日常生活行動を援助するために必要な看護技術が実施できる。④患者役割・看護師役割を通して、より良い看護の援助方法を検討することができる。							
準備学習	文献検索を実施し、主体的に課題に取り組む。							
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標					
	1	看護技術とは 看護における安全・安楽	到達目標：看護技術とは何かを学び看護技術の特殊性と能動的な学修態度の必要性が理解できる。 学習内容：看護技術の考え方、看護における安全・安楽について学習する。					
	2	〔演習〕感染予防の技術	到達目標：看護場面に共通する安全を守るための基本的な技術を実施できる。 学習内容：衛生的手洗い、個人防護具（エプロン・滅菌手袋・マスク）の着脱について学習する。					
	3	病床環境を整える技術	到達目標：健康生活における環境及び療養生活の環境調整について理解できる。 学習内容：環境の諸要素とその調整、快適な病室と病床環境について学習する。					
	4							
	5	活動と休息の援助技術	到達目標：ボディメカニクスと活動・休息への援助について理解できる。 学習内容：安楽な姿勢・体位の保持、ボディメカニクス、活動・運動への援助に必要なアセスメントの視点、休息と睡眠について学習する。					
	6	〔演習〕ベッドメイキング	到達目標：対象者への安全・安楽な環境調整への理解を深め適切な援助を実施できる。 学習内容：ベッドメイキングの方法と環境調整について学習する。					
	7							
	8	〔演習〕体位変換、移動・移送	到達目標：ボディメカニクスを活用し、安全・安楽を考えた看護援助が実施できる。 学習内容：安楽な体位の保持、体位変換、移動・移送（車椅子・ストレッチャー）について学習する。					
	9							
	10	〔演習〕臥床患者のリネン交換	到達目標：患者の状態を観察しながら、安全・安楽にリネン交換が実施できる。 学習内容：ボディメカニクスを活用した臥床患者のリネン交換の方法について学習する。					
	11							
	12	清潔・衣生活の援助技術	到達目標：清潔・衣生活のニーズと清潔・衣生活への援助について理解できる。 学習内容：清潔援助の意義と目的、療養生活が清潔・衣生活に及ぼす影響、清潔・衣生活のアセスメントの視点、清潔への援助方法を学習する。					
	13							
	14	〔演習①〕全身清拭・寝衣交換	到達目標：清潔・衣生活の意義と看護の役割を理解し、対象者の状態にあった安全で安楽な清潔への看護援助が実施できる。 学習内容：					
	15		〔演習①〕洗淨剤を用いた全身清拭・寝衣交換の援助方法について学習する。					
	16	〔演習②〕洗髪	〔演習②〕ベッド上での洗髪の援助方法について学習する。					
	17		〔演習③〕ベッド上での足浴の援助方法について学習する。					
	18	〔演習③〕足浴						
	19	食事・栄養摂取の援助技術	到達目標：栄養状態のアセスメントと食事援助について理解できる 学習内容：食事・栄養摂取の意義、食事に関する生理学的メカニズム、食生活の援助に関するアセスメントと援助方法について学習する。					
	20	〔演習〕栄養状態のアセスメント	到達目標：紙上事例の栄養状態をアセスメントし援助計画の立案ができる。 学習内容：栄養状態のアセスメントと計画立案の方法について学習する。					
	21	〔演習〕食事援助・経管栄養法	到達目標：立案した食事援助計画を実施できる。 学習内容：食事援助の方法と口腔ケア、経管栄養法について学習する。					
	22							
	23	排泄の援助技術	到達目標：排泄のニーズとメカニズム及び排泄の援助について理解できる。 学習内容：排泄の意義、排泄の生理学的メカニズム、排泄の援助に関するアセスメントと援助方法について学習する。					
	24							
	25	〔演習〕自然排泄への援助	到達目標：対象者の尊厳を守りながら自然排泄への援助が実施できる。 学習内容：ポータブルトイレ、床上での排泄の援助、おむつ交換、陰部洗淨の方法を学習する。					
	26							
	27	バイタルサインの測定技術	到達目標：バイタルサインの概念を理解し、患者の身体面の状態を把握するために必要なバイタルサインの観察方法が理解できる。 学習内容：(1)体温・脈拍・呼吸・血圧の変動要因と得られた情報のアセスメントについて学習する。 (2)意識レベルを観察する必要性と判定の代表的な方法について学習する。					
	28	〔演習〕バイタルサイン測定	到達目標：バイタルサインを測定し、評価及び記録・報告ができる。 学習内容：体温・脈拍・呼吸・血圧の観察と測定方法について学習する。					
	29	〔演習〕バイタルサイン測定						
30	〔技術確認〕	学習目標：日常生活の援助技術が適切にできる。 到達目標：日常生活の援助技術を確認する。						
成績評価の方法・基準	①課題(20%) ②技術試験(30%) ③筆記試験(50%) （技術試験と筆記試験はそれぞれ60%以上の得点があること） 対面時：②③がそれぞれ60%以上、オンライン時：③が60%以上に達していること。							
教科書	新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 演習・実習に役立つ基礎看護技術		深井喜代子編 深井喜代子編 三上れつ・小松万喜子編			メヂカルフレンド社 メヂカルフレンド社 ヌーヴェルヒロカワ		
参考図書	新訂版、看護技術講義・演習ノート上下巻 看護技術が見えるVol.1基礎看護技術 第1版		山口瑞穂子編 医療情報科学研究所			サイオ出版, 2018 メデックメディア, 2017		
教員からのメッセージ	演習は小グループで実施しますので技術の根拠を考えながら主体的に学んで下さい。また、技術の習得にはセルフトレーニングが必要です。セルフトレーニングを行うことで看護技術を身につけていきましょう。課題はコメントを付して返却します。臨床経験豊富な看護師資格を持つ教員が担当します。							

科目名		基礎看護技術Ⅱ (日常生活援助技術)	教員名	宮下真理子 北島元治 看護学科教員		学科等	看護	必修	履修年次	1
(科目番号)		(時間割参照)		曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2			
				授業形態	演習	オフィスアワー				
授業概要		看護は、人間に対する深い理解と科学的な思考、専門的な技術が一体となって看護活動を展開する。ここでは基礎看護技術Ⅰで修得したコミュニケーション技術を活用しつつ、生活行動を援助するために必要な専門的知識・技術について学習する。日常生活援助技術として環境調整、活動と休息、清潔、栄養と食事、排泄に関わる看護技術を習得し、実践できる力を養う。また、バイタルサイン測定技術を学び、安全・安楽・自立の視点から根拠に基づいた援助のあり方についても考えを深める。								
目的・目標		目的:対象者の日常生活行動を援助するために必要な専門的知識・技術・態度を習得する。 目標:①人間の基本的欲求に深く関わり、個々の生活環境や発達段階により異なる日常生活行動を理解できる。②生活行動をアセスメントするための観察の視点が理解できる。③日常生活行動を援助するために必要な看護技術が実施できる。④患者役割・看護師役割を通して、より良い看護の援助方法を検討することができる。								
準備学習		毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。								
授業計画	回	授業項目		学習内容・到達目標						
	1	看護技術とは 看護における安全・安楽		到達目標:看護技術とは何かを学び看護技術の特殊性と能動的な学習態度の必要性が理解できる。 学習内容:看護技術の考え方、看護における安全・安楽について学習する。						
	2	〔演習〕感染予防の技術		到達目標:看護場面に共通する安全を守るための基本的な技術を実施できる。 学習内容:衛生的手洗い、個人防護具(エプロン・滅菌手袋・マスク)の着脱について学習する。						
	3	病床環境を整える技術		到達目標:健康生活における環境及び療養生活の環境調整について理解できる。 学習内容:環境の諸要素とその調整、快適な病室と病床環境について学習する。						
	4									
	5	活動と休息の援助技術		到達目標:ボディメカニクスと活動・休息への援助について理解できる。 学習内容:安楽な姿勢・体位の保持、ボディメカニクス、活動・運動への援助に必要なアセスメントの視点、休息と睡眠について学習する。						
	6	〔演習〕ベッドメイキング		到達目標:対象者への安全・安楽な環境調整への理解を深め適切な援助を実施できる。 学習内容:ベッドメイキングの方法と環境調整について学習する。						
	7									
	8	〔演習〕体位変換、移動・移送		到達目標:ボディメカニクスを活用し、安全・安楽を考えた看護援助が実施できる。 学習内容:安楽な体位の保持、体位変換、移動・移送(車椅子・ストレッチャー)について学習する。						
	9									
	10	〔演習〕臥床患者のリネン交換		到達目標:患者の状態を観察しながら、安全・安楽にリネン交換が実施できる。 学習内容:ボディメカニクスを活用した臥床患者のリネン交換の方法について学習する。						
	11									
	12	清潔・衣生活の援助技術		到達目標:清潔・衣生活のニーズと清潔・衣生活への援助について理解できる。 学習内容:清潔援助の意義と目的、療養生活が清潔・衣生活に及ぼす影響、清潔・衣生活のアセスメントの視点、清潔への援助方法を学習する。						
	13									
	14	〔演習①〕全身清拭・寝衣交換		到達目標:清潔・衣生活の意義と看護の役割を理解し、対象者の状態にあった安全で安楽な清潔への看護援助が実施できる。 学習内容:						
	15			〔演習①〕洗浄剤を用いた全身清拭・寝衣交換の援助方法について学習する。						
	16	〔演習②〕洗髪		〔演習②〕ベッド上での洗髪の援助方法について学習する。						
	17			〔演習③〕ベッド上での足浴の援助方法について学習する。						
	18	〔演習③〕足浴								
	19	食事・栄養摂取の援助技術		到達目標:栄養状態のアセスメントと食事援助について理解できる 学習内容:食事・栄養摂取の意義、食事に関する生理学的メカニズム、食生活の援助に関するアセスメントと援助方法について学習する。						
	20	〔演習〕栄養状態のアセスメント		到達目標:紙上事例の栄養状態をアセスメントし援助計画の立案ができる。 学習内容:栄養状態のアセスメントと計画立案の方法について学習する。						
	21	〔演習〕食事援助・経管栄養法		到達目標:立案した食事援助計画を実施できる。。 学習内容:食事援助の方法と口腔ケア、経管栄養法について学習する。						
	22									
	23	排泄の援助技術		到達目標:排泄のニーズとメカニズム及び排泄の援助について理解できる。 学習内容:排泄の意義、排泄の生理学的メカニズム、排泄の援助に関するアセスメントと援助方法について学習する。						
	24									
	25	〔演習〕自然排泄への援助		到達目標:対象者の尊厳を守りながら自然排泄への援助が実施できる。 学習内容:ポータブルトイレ、床上での排泄の援助、おむつ交換、陰部洗浄の方法を学習する。						
	26									
	27	バイタルサインの測定技術		到達目標:バイタルサインの概念を理解し、患者の身体面の状態を把握するために必要なバイタルサインの観察方法が理解できる。 学習内容:(1)体温・脈拍・呼吸・血圧の変動要因と得られた情報のアセスメントについて学習する。 (2)意識レベルを観察する必要性と判定の代表的な方法について学習する。						
	28	〔演習〕バイタルサイン測定		到達目標:バイタルサインを測定し、評価及び記録・報告ができる。 学習内容:体温・脈拍・呼吸・血圧の観察と測定方法について学習する。						
	29									
30	〔技術確認〕		学習目標:日常生活の援助技術が適切にできる。 到達目標:日常生活の援助技術を確認する。							
成績評価の方法・基準		①課題(20%) ②技術試験(30%) ③筆記試験(50%) (技術試験と筆記試験はそれぞれ60%以上の得点があること) 対面時:②③がそれぞれ60%以上、オンライン時:③が60%以上に達していること。								
教科書		新体系看護学全書基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ 新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ 看護技術プラクティス 第4版			深井喜代子編 深井喜代子編 竹尾恵子(監修)小澤美恵子(編) 池田真理(編)			メヂカルフレント社 メヂカルフレント社 学研		
参考図書		新訂版, 看護技術講義・演習ノート上下巻 看護技術が見えるVol.1基礎看護技術 第1版						サイオ出版, 2018 メデックメディア, 2017		
教員からのメッセージ		演習は小グループで実施しますので技術の根拠を考えながら主体的に学んで下さい。また、技術の習得にはセルフトレーニングが必要です。セルフトレーニングを行うことで看護技術を身につけていきましょう。課題はコメントを付して返却します。臨床経験豊富な看護師資格を持つ教員が担当します。								